



地域形成史フォーラム 2026 高知

昭和南海地震 80 年 南海地震を再考する

写真：昭和南海地震における地盤沈下（西予市三瓶町安土）

日時 2026年1月10日(土) 13:30～16:30

会場 高知城歴史博物館 1階ホール (高知市追手筋 2-7-5)

2024年4月には豊後水道でM6.6の大きな地震が発生し、四国・九州では震度6や5の地域が多数観測されました。政府は、2025年3月に南海トラフ地震の想定情報を更新し、防災対策は喫緊の課題として新たなフェーズに入ったと言えます。昭和南海地震80年となる本年、防災工学や歴史学など文理の枠を超えて、最新の情報を総合的に融合し、南海地震を再考する新たな機会とします。

基調講演

森伸一郎（愛媛大学客員教授、MORI研究所代表：インフラ強靭化メンテナンス最適化研究）

「南海トラフ地震の新しい被害想定を歴史から読み解く
—安政・昭和・令和をつなぐ教訓—」

研究報告

井上淳（愛媛県歴史文化博物館学芸課長、愛媛資料ネット委員）

「宇和海沿岸における安政南海地震の津波被害」

山内利秋（九州医療科学大学准教授、宮崎歴史資料ネットワーク事務局）

「宮崎での昭和南海地震は、なぜ被害が少なかったのか」

シンポジウム

司会 胡 光（愛媛大学教授、愛媛資料ネット代表）

申込フォーム

開催方式：ハイフレックス

会場 80名
オンライン 150名



問い合わせ

〒790-8577

愛媛県松山市文京町3

愛媛大学法文学部内

愛媛資料ネット代表

胡 光（えべすひかる）

TEL&FAX 089-927-9316

主催：JSPS 科学研究費助成事業 基盤研究(A)「災害文化を内包する地域の記憶継承に資する地域歴史資料学と地域形成史の構築」
(研究代表・奥村弘 神戸大学) 研究グループ

共催：高知県立高知城歴史博物館

人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」神戸大学拠点